

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 21 日

| | | | | | |
|------------|--------------------------|---------------|---------------------------------------|------|-------|
| 所属 | 国際教養学部 | 職名 | 教授 | 氏名 | 渡辺 恭人 |
| 研究課題 | 訪日観光客の行動分析に基づく需要喚起の検討 | | | | |
| 研究キーワード | インバウンド 訪日観光客 行動 分析 選択 | 当年度計画に対する達成度 | 3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した | | |
| 関連するSDGs項目 | 11. 住み続けられるまちづくりを | 14. 海の豊かさを守ろう | 15. 陸の豊かさを守ろう | 該当なし | |

1. 研究成果の概要

本研究では、訪日外国人観光客の嗜好や傾向、利用する情報源など情報行動が明らかにすることで、政府や自治体の施策とのマッチングの可能性が高まり、訪日観光客を誘引することにつながり、結果として訪日観光客を分散化することができる考えた。

政府機関が推進する施策、都道府県市区町村が実施する施策、公開されている統計データから傾向の分析を行う。市訪日観光客が日本を訪問するに当たってのニーズは、実際に訪日観光客にアンケートやインタビューを実施して調査した。また、訪日観光客の訪問地選択の情報行動について、市区町村が行うべき施策の要件について議論、提案を行い、今後の訪日観光客の分散化、より有効な誘致につなげることを目指した。

訪日外国人観光客のニーズとしては、人気スポットでは、施設・エンタテインメント、自然・風景、神社仏閣、歴史が上位となり、「日本らしさ」が求められ、体験では自然の体験が求められることがわかった。

このことから、「訪日外国人観光客は自然を好む傾向にあり、知名度が低い観光地であっても、自然が豊富である地方の PR を効果的に行えば、都心部同様に訪日外国人観光客が増加する」のではないかと考えた。①群馬県草津町への聞き取り調査、②訪日外国人観光客へのインタビュー、③城崎温泉との比較分析、④地方誘致の成功事例の分析を行い、この仮説を検証した。

①国内の観光客に人気があり海外への PR はしているものの人手不足で十分に行えてない。②SNS が重要な情報源となっている。③城崎温泉が宣伝と町を挙げての取り組みがインバウンド人気を呼び込んでいる。④PR を効果的に行っているところが成果を上げている。これらから、自然豊かな日本の観光地は、効果的な PR によって周知し認知度を高めることで訪日外国人観光客の増加に繋げられることがわかった。

これらに加えて、訪日外国人観光客への様々な対応を行うための人的資源の確保、食べ歩きや宿泊施設、浴衣体験など付近の充実度、その地域へのアクセス利便性の向上、ゴールデンルートを経験したりピーター客への衆知と獲得を含めて、訪日外国人観光客を地方に分散させるにあたって、6つの条件に絞り込んだ。①「PR 宣伝・SNS 発信」②「日本らしさ」③「人的資源」④「付近の充実度」⑤「アクセス・利便性」⑥「リピーター客の獲得」である。その条件により地方誘致の実現可能性向上につながることを提案した。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

特になし。

検討した要件と実現可能性についての調査と検討を追加で行い、論叢、紀要への投稿を行いたい。

【論文（査読あり）】

なし。

【著書・論文（査読なし）】

なし。

【学会発表等】

なし。

3. 主な経費

データの収集や分析についての関連書籍の購入、データ処理の性能、記憶容量整備など計算機資源の環境整備について、必要な機器を消耗品にて購入して使用した。現地調査については手違いから使用できず、別途自費で対応した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし

(本文は2ページ以内にまとめること)